

## A 話すこと・聞くこと部会 平成30年度の研究の方向

話すこと・聞くこと部会部長 恵那市立恵那東中学校 小島 光太郎

### 1 今年度の研究の方向

平成30年度 中国研 研究主題

## 生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

#### 目指す生徒の姿

- ◎言語活動に魅力を感じながら、学習の意義を自覚して見通しをもち、主体的に学ぶ姿
- ◎目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎自己の変容や学びの深まりを実感して、学んだことをさらに別の場で生かそうとする姿

平成30年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

## 目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成 ～必然のある言語活動の設定と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

#### 研究仮説

- ・生徒が「話したい」「聞きたい」と思うような言語活動を設定し、言語活動を通して目指す生徒の姿を具体化して描き、学習する意義を生徒に理解させながら見通しをもって学習させることで、生徒は目的や場面に応じて適切に表現する力を身に付けるであろう。
- ・さらに生徒自身が自己の変容や学びの深まりを自覚するような評価の工夫を行うことで、生徒自身が言語能力の高まりを実感し、別の場でも学びを生かそうとするであろう。

#### (1) 指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と、岐阜県全域におけるカリキュラムマネジメントの推進
  - ・指導計画の段階で、指導事項と照らし合わせながら言語活動の完成形をより具体的に描く。
  - ・その中で生徒に「付けたい能力」を身に付けさせるために、どのような姿が見られたらよいのかという具体的な姿を明確にする。(黒板写真・授業資料の共有)
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
  - ・「話したい」、「聞きたい」と思うような魅力あるテーマ設定を考える。同時に「話し合わなければいけない」といった必然あるテーマについても考えていく。

#### (2) 指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
  - ・課題化までに、必然を感じさせるような効果的な導入の工夫をする。
  - ・効果的なモデル提示の在り方を工夫する。
- ②「どの子」にも「確かな学力」を身に付けるための手だての工夫
  - ・うまくできない生徒ができるようになるための「苦手を克服するための手立て」はもちろん、得意な生徒がさらに上のレベルを目指せるようにするための「得意を伸ばす手立て」も考える。

#### (3) 評価の工夫

- 生徒自身が50分間での自己の高まりを実感することができる場の位置付け
- ・学習活動の中での自己の姿を客観的に知り、評価できるような音声言語教育の評価の在り方を工夫する。(ビデオカメラやICレコーダー、タブレットといった機器の効果的な活用)

## 2. 昨年度までの成果と課題

昨年度の中国研全国大会や研究部員の先生方の実践を通して、次のような成果と課題が見えてきた。

### 昨年度の実践の成果と課題

- 可茂地区で様々な地域の特色や行事を活用して、言語活動やテーマの開発をすることができた。
- 全国大会の授業を実際に行ったり、何度も授業研究を行ったりすることで、「話すこと・聞くこと」に実践について練り合うことができた。
- 付けたい力を身に付けさせるには、言語活動の設定はもちろん、テーマの設定が重要であることの認識を部会内で定着させることができた。
- 単元の肥大化をどう食い止めるか。
- 話し方や聞き方などのスキルを習得させるのに、どのような単元の流れを作るとよいか。

## 3. 主題設定の理由

昨年度の全国大会までの実践の積み重ねや、全国大会の授業・実践発表によって、「話すこと・聞くこと」部会の研究が蓄積されてきている。今年度も、同じ方向性をもって昨年度の研究主題を継続させながら研究を深め、広げていきたいと考えている。

今年度は昨年度までに作成された「生きてはたらく言語能力」及び「言語活動例」一覧表を指針として、実際の授業を一覧表をもとにして組み立てて実践を積み重ねることで、さらに精度を高めていきたいと考えている。

その際に大切にしたいことが、2点ある。1点目は、言語活動を生徒にとって必然のあるものにして、生徒が学習の意義を理解しながら見通しをもって学習を進めていくことである。必然ある言語活動の設定によって、「話したい」、「聞きたい」、「話し合いたい」といった生徒の主体性に結びついていく。また、なぜそのような力が必要なのかといったことや、どのようにして力を付けていくのかといったことを明らかにすることも、生徒が力を付けていく上で欠かすことができない。2点目は言語能力を実際の運用場面の中で具体化することである。「付けたい能力」として示されているものは、あくまで一般的な力であり、実際の運用場面の中ではさらに具体化する必要があると考えている。授業実践を通して、生徒にどのような姿が見られたら「付けたい能力」が身に付いたと言えるのかということを具体化していきたい。

これらのことを、研究部員の先生方を中心にして実践を行う中で研究し、現在ある一覧表をさらに精度が高く県内の先生方に使ってもらえるものにしていきたい。

## 4 研究計画 (日程が変更する場合があります)

時 期	会合名等	具体的な内容
1 学期	□第1回研究部総会 5月15日(火) 場所:岐阜市東部コミュニティセンター	○「話すこと聞くこと」部会の顔合わせ ○今年度の研究の方向について ○黒板写真ホームページアップの役割分担
	○第1回「話すこと・聞くこと部会」	○夏季研修会での実践提案者の決定 ○「ぎふこくご」紀要原稿執筆者の決定
夏休み	□第1回「明日の授業を考える会」 8月上旬 場所:未定	○午後の「話すこと聞くこと部会」にて、夏季ゼミナールの実践提案者のプレゼンを見合う。
	○第2回「話すこと・聞くこと部会」	
	□夏季研修会 8月20日(月) 場所:岐阜市教育研究所	○前年度実施の全国大会授業者からの実践報告 ○各部会からの実践提案
	○第3回「話すこと・聞くこと部会」	
2 学期	□第2回「明日の授業を考える会」 12月下旬 場所:未定	○授実践業・実践提案の振り返り ○来年度に向けて
	○第4回「話すこと・聞くこと部会」	
3 学期	□第2回代議員会研究部総会 2月中旬～下旬 場所:未定	□研究構想の検討と完成 □岐阜県中国研におけるカリキュラムマネジメントにおける2年次の役割分担 □来年度の研究部員継続のお願いと確認 □「ぎふこくご」の配付による研究報告

